

令和4年度 県立八千代高等学校自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>総合学科の理念を生かし、一人一人の個性の伸長を図るとともに、生涯学習の礎となる知・徳・体を確立させ、時代の変化に応じて、創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人材を育成する。生徒に必要な力を5C=5つのChikaraとして捉え、教育活動のあらゆる場面でChallenge(挑戦する力)、Choice(選択する力)、Change(変化させる力)、Communication(つながる力)、Career(自分の未来を切り拓く力)を育てる。</p> <p>(1) 授業改善の取組を推進し、基礎学力の定着、学習意欲の向上を図るとともに、「教える」授業から「学ぶ」授業への転換により、自ら学び自ら考える力を育成する学校</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動や自然体験等をとおして、規範意識や豊かな人間性を育成する学校</p> <p>(3) 部活動の活性化、ボランティアなど協力しあう経験により、健やかな心身を育成する学校</p> <p>(4) 系列での学習を生かしながら、生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指すとともに望ましい勤労観・職業観を育成する学校</p> <p>(5) 「開かれた学校」を目指し、保護者・地域社会・異校種学校等と連携・協働しながら、教育活動の改善・充実を図り、郷土に対する愛情と協力しあう心を育てる学校</p> <p>(6) 「働き方改革」を念頭に、常に業務改善を図るとともに、ライフワークバランスのとれた信頼される教職員の育成を目指す学校</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>総合学科の特長を生かし“個性をみがき夢をかたちに”をモットーに「一人ひとりの個性を生かす教育」を推進している。5つの系列(文理総合、基礎教養、自動車・電機、商業実務、福祉・家庭)を編成後7年が経過し、成果の検証とさらなる教育内容の充実を図る時期を迎えている。また、生徒に必要な力を5C=5つのChikaraとして捉え、教育活動のあらゆる場面でChallenge(挑戦する力)、Choice(選択する力)、Change(変化させる力)、Communication(つながる力)、Career(自分の未来を切り拓く力)を育てるための取組を充実させたい。</p> <p>学習面では「授業が一番」を掲げ、「わかる授業」を目指して授業改善を図っている。今後はさらに「主体的・対話的で深い学び」を実践しながら、生徒に主体的に学習に取り組ませるためにICTを効果的に取り入れ工夫や発展的な学習の機会を確保するとともに、授業の相互参観等を計画的に行い、本校におけ</p>	<p>1 基礎学力の定着、学習意欲の向上、自ら学び考える力の育成</p>	<p>①「授業が一番」とし、「チャイム始業」を徹底して1分1秒を大切にした授業を展開するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実践を図る。相互授業参観や異校種授業見学および指導主事訪問等を利用して、指導方法の工夫・改善に努める。</p> <p>②「何を知っているか」だけでなく「何ができるか」を重視し、「わかる授業」を実践し基礎学力の定着を図る。「自分の考えを書いてまとめ、発表する」、「他者に説明する」等の言語活動の充実をとおして、自己表現能力の育成に努める。</p> <p>③課外授業や各種検定・資格試験、模擬試験、各種大会やコンクール等への参加等を効果的に取り入れ、発展的な学習の機会を確保するとともに、多様な進路希望に対応できる学力の養成を図る。</p> <p>④予習・復習や課題等に取り組むための具体的な方策を講じて家庭学習を習慣化し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>⑤「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにICTを活用し効果的な指導の工夫に努める。</p>	<p>B</p>
	<p>2 基本的生活習慣の確立、規範意識や豊かな人間性の育成</p>	<p>⑥全職員の共通理解に基づいた服装容儀指導を実施するとともに、挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法の指導等、基本的生活習慣の確立に努める。</p>	<p>B</p>

<p>る望ましい指導の在り方について考察していく必要がある。</p> <p>生徒指導においては「礼儀・挨拶」を大切にし、教職員の共通理解に基づいたきめ細かい指導が成果を上げ、生徒は概ね落ち着いた学校生活を送ることができている。今後は挨拶や服装容儀の指導をさらに充実させるとともに、現在課題となっている交通マナーの遵守や安全なインターネット利用の指導を徹底させていきたい。</p> <p>特別活動においては、生徒会や各部で熱心な指導が行われており、運動部では柔道部や陸上競技部、ボクシング部、文化部では吹奏楽部や工業クラブ等が上位大会に進出するなど成果を収めている。一般入試において特色選抜を実施しており、部活動の活性化をおとした活力ある学校づくりを目指したい。入学時の部活動見学を計画的に行うことにより、部活動への加入率が高まっている。引き続き加入率の向上に努めたい。</p> <p>進路指導においては、生徒の多様な進路希望に応じて一定の成果を上げている。国公立大学をはじめとした進学者が増加し、また、地元の大手地方銀行への内定者を出すなど、就職率 100%の内容がさらに充実したものになっている。今後は個別面談等を通して、早期よりキャリアガイダンス機能を充実させ、より高い目標を掲げた進路実現に努めていきたい</p> <p>緊急情報メールや学校ホームページの適切な利活用により、開かれた学校づくりを目指し、地域における信頼ある学校としての地位</p>		<p>⑦道徳教育や特別活動、自然体験や読書活動等をとおして、自他を尊重する心、奉仕する心、感動する心等の豊かな心を育成する。</p> <p>⑧LHR や特別活動、道徳教育等をとおして社会規範や校則を遵守する意識を培い、校則違反者の減少に努める。</p> <p>⑨特別活動や講話等をとおして、危機管理（交通マナー・インターネットマナー・防犯等）に対する意識の醸成と危機回避能力の育成を図る。</p> <p>⑩個に応じた指導を充実させるため、個別面談や職員間での情報共有を適切に行い、必要に応じて外部機関とも連携してより効果的なチーム指導を推進する。</p>	
	<p>3 特別活動や部活動の活性化をとおした健やかな心身の育成</p>	<p>⑪LHR 等における指導内容を工夫・改善し、年間計画に基づいたより効果的なホームルーム活動を推進する。</p> <p>⑫生徒の自主的・自発的な活動を推進し、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>⑬文化祭や体育祭等の学校行事をとおして、協力しあう心や責任感を育む。</p> <p>⑭部活動の指導においては、心身の発達に応じた科学的な手法を取り入れながら工夫・改善するとともに、発表する場や練習試合等をとおして実践的な力を向上させ、生徒の健やかな心身の成長を図る。</p>	<p>A</p>
	<p>4 進路希望の実現、望ましい勤労観・職業観の育成</p>	<p>⑮3年間を見通したキャリア教育計画の下に、個別面談等によるキャリアガイダンスを充実させて早期から進路意識の醸成を図るとともに、生徒一人ひとりの能力や適性に基づいた、計画的な進路指導を実践する。</p> <p>⑯系列での学習を生かしながら、進学指導の充実と就職内定率 100%を目指し、個に応じたきめ細かい進路指導を推進する。</p> <p>⑰外部講師による講演会や企業・学校見学、実習等をとおして、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。</p> <p>⑱礼法指導や小論文・面接指導、資格取得等を生かして、進路決定率の向上を図る。</p>	<p>B</p>

を更に確立し、広報紙や在校生による学校案内を積極的に発行し、志願者の確保にも努めたい。	5 保護者や地域社会等との連携・協働	<p>⑲ホームページや広報誌、学校紹介ビデオ、在校生による学校説明等をとおして、学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域社会からの要望や提言を検討し、学校教育の改善・充実に生かす。</p> <p>⑳中学校などの異校種学校等への訪問を効果的に実施し、情報や意見の交換をとおして連携を密にし、地域社会から信頼される学校を目指す。</p> <p>㉑ボランティア活動や部活動、探究的な学び等で、地域社会の行事に積極的に参加し、交流を深めるとともに、地域社会との連携・協働を推進する。</p>	A
	6 業務改善と働き方改革の実現、ワークライフバランスの達成	<p>㉒外部専門家の活用、学校行事の精選、文書事務の簡略化など業務の改善に取り組み、職場環境の向上を図るとともに勤務時間の短縮を推進し、心身ともに健康なワークライフバランスのとれた信頼される教職員の育成を推進する。</p> <p>㉓生徒、保護者、地域から信頼される教職員として服務規律を遵守する。</p>	B
三つの方針		具体的目標	
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に応じて創造的にキャリアを形成しながら社会に貢献できる人財 ・規範意識と豊かな人間性を身に付け、健やかな心身と他者への思いやりを持った人財 ・郷土に対する誇りや周りの環境に愛着をもち、地域社会の未来を牽引できる人財 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) <ul style="list-style-type: none"> ・総合学科の理念の下、生徒の多様な学習ニーズに対応した普通教科と専門教科の履修機会の提供 ・生徒一人一人の進路希望を実現させる、確かな知識・技能、より高度な思考力・判断力・表現力を育む授業・実習の実施 ・教育課程全般を通して、課題を発見し、仮説を立て取り組み、まとめ・表現し、次の「探究」サイクルへと繋げる学びをデザイン 	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) <ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野に興味関心を持つとともに、自己の専門をより深く探究しようという意欲のある生徒 ・自己の将来を見据え、進路実現に向け日々努力することができる生徒 ・倫理観や規範意識があり、学校生活に積極的に関わる意志のある生徒 	

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教 務 部	多様な生徒に対応し、基礎学力の定着を図りながら、さらなる学力向上のための手立てを講じる。	本校生徒につけさせたい資質・能力を確実に定着させるため、適正な授業時間の確保に努め、チャイム管理を適切に行うとともに、チャイム始業を励行する。 ①②	B	B	観点別学習評価についての研修等をおこない、評価が適正に行われるようする。年間指導計画やシラバスの作成を適正な時期に依頼する。	
		新教育課程の編成に向けて、国の動向に関する研修会を企画・実施するとともに、生徒の実情に応じた教育課程編成を研究する。 ①②③④	B			
		各年次のシラバスの作成にあたり、評価基準の更なる適正化と観点別学習評価の一層の充実に努める。 ②③④	B			
		生徒の学習状況及び出席状況に関する情報の共有化を徹底し、時期に応じた指導の構築を図る。 ②⑩⑮	B			
		各種調査・統計・アンケートを実施し、生徒の実態・変容を把握し、次の目標設定に資するよう情報提供に努める。 ②③④⑮	B			
	総合学科としての教育活動の充実・発展を図る。	各系列・年次の学習活動が円滑に進むよう、総合学科特有のきめ細かな運営が必要とされる時間割編成、定期考査、教科書選定、授業変更等の事務作業を適切に行う。 ①②③⑩⑪	B	A	教科や系列における各種検定、資格取得への意識を高める。	
		各種検定・資格取得を励行し、表彰式をとおして顕彰に努める。また、増単位認定に係る事務手続きを確実かつ迅速に行うための年次・教科の連携を促進する。 ③④⑮	A			
	校内研修の充実を図る。	学力向上委員会・フォローアップ委員会・人権教育委員会などと連携し、各種校内研修会を年間計画の中に位置づけ、意識啓発と情報共有に努める。 ①⑩	B	B	教員発信のICT研修を企画し、他教員が授業へ活用できるような体制づくりをする。	
		各教科・系列と連携し「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るとともに、相互授業参観充実のための具体的な方策を提言・実施する。また、ICTの研修を実施し授業での活用につなげる。 ①②③④⑤	B			
		広報活動を充実させる。	魅力的な学校案内パンフレットや中学生向け広報誌を作成し、中学校訪問及び学校説明会等で活用する。 ⑲⑳	B		B
年2回のオープンスクールデー及び第3回目となる学校公開を充実させる。 ⑲⑳			B			
教育活動の円滑な運営と広報のため、緊急配信メールの加入について説明する機会を増やし、加入率の早期向上に努める。また、配信頻度を上げて各部・年次・系列などの必要な情報を適正に発信する。 ⑲	A					
	小学生対象学習ボランティア等を通して、積極的に地域との連携を図る。 ⑲⑳㉑					
生 徒 指 導 部	生徒一人ひとりの社会的な資質を育み、基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育てる。	服装頭髪指導及び挨拶指導の徹底を図る。 ⑥⑦⑧	B	B	全生徒に、正しい制服着用の徹底を図る。	
		欠席・遅刻・早退に対する個別指導の徹底を図る。 ⑥⑧	A			
	問題行動の未然防止・早期発見を図る。	被害調査・個別面接等を適宜実施する。 ⑨⑩	A	A	次年度も引き続き実施していきたい。	
		巡回・通学指導を計画的に実施する。 ⑥⑧	A			
		貴重品袋の活用や施錠の励行などにより、盗難防止対策の徹底を図る。 ⑦⑨	A			
	生徒指導の実施により、充実した学校生活を送れるよう環境作りに努める。	生徒への適切な説明を行いながら、手順に沿った生徒指導を実施する。 ⑥⑨⑩	A	A	次年度も引き続き実施していきたい。	
		問題行動に対する迅速な対応に努める。 ⑥⑨⑩	A			
		学校行事や特別活動がスムーズに行えるよう警備面でのサポートに努める。 ⑨⑩	A			
	交通安全指導の徹底により、安全意識の高揚及び事故の未然防止を図る。	自転車・バイク点検および交通安全指導の適正化を図る。 ⑧⑨	B	B	交通事故件数が増加傾向にあるので、バイク・自転車の安全運転教育の徹底を図る。	
		二輪車安全運転実技講習会等への参加を徹底し、安全運転の意識を高める。 ⑧⑨	B			
普通車免許の取得に関する注意喚起に努めるとともに、安全講習を実施する。 ⑧⑨		A				

別紙様式2 (高)

進路	希望進路実現に必要とされる学力向上等を目指し、工夫しながら指導に努める。	基礎学力の学力向上を促し、さらに各年次における模試を計画的に実施することにより、学力を向上させる。 ①③④	B	B	文理総合系列生徒や進学を目指す他系列生徒がどのように目標を設定するかなどの指導方法。基礎学力向上受験における前後の指導方法
		早期の就職内定率 100%を目標に、キャリア教育を促進させて入社試験に対応できる能力を育成する。 ③⑬	B		
		生徒の個人的弱点等を把握するため、進学模試を活かしつつ、家庭学習と進学課外への積極的な取組につなげる。 ③④	B		
		広報誌「こちら進路室」を含めた進路指導部からの情報発信などから進路への関心を向上させる。 ⑮⑯	A		
指導部	生徒・保護者に対して有益な進路情報を提供し、適切な進路指導を目指す。	「進路の手引き」を有効活用し、個々の希望進路の実現を目指す。 ⑮⑯	A	A	進路支援企業選定方法について
		進路室の資料等の整理に努力し、それらの資料を生徒及び保護者が閲覧し易いように務める。 ⑮⑯	A		
		各年次のLHRや総合的な探究の時間や進路ガイダンス等により、個々の生徒の進路志望に対応した進路指導をする。 ⑯	A		
部	地域や進路先との関係を大切にし、効果的な進路指導を目指す。	LHRや総合的な学習の時間において、進路指導に関する効果の把握に努める。 ⑯	A	A	地元企業人事担当者との研究協議や生徒の企業研究機会確保など
		求人企業や上級学校の情報等を保護者へ適切に提供することで、より効果的な進路指導を目指す。 ⑯⑲	A		
部	他分掌と協力しながら、生徒の将来まで想定した指導の仕方を常に研究する。	教務部や生徒指導部との連携を密にし、より良い進路決定ができるように努める。 ⑨⑯⑲	B	B	学習成績評価の適正化へ働きかけ
		基本的生活や自主学習の習慣等をも考慮したキャリア教育に努める。 ④⑥⑧⑮⑳	B		
保健	安全・衛生管理に注意し学習環境を整える。感染症対策を全校生徒・全職員に周知・徹底させる。	「学校保健計画」を基に、適切な実施・運営に努める。 ⑲	B	B	健康診断・各検診などは予定通り行うことが出来た。次年度は、生徒の欠席状況を把握できるようにしたい。
		保健室の円滑な運営と管理に努める。休憩室の設置。 ⑲	B		
		各種検診・身体測定を円滑に実施し、適切な事後処理に努める。また、データの処理及び管理を適正に行う。 ⑲	B		
		校内の環境・安全・健康管理に関する情報の周知に努めるとともに、緊急時は適切な対応をとる。手洗い・うがい・アルコール消毒の励行。3密（密閉・密集・密接）を防ぐ。 ⑲	B		
		パン販売・自動販売機の品目の検討を進めると共に、販売内容の充実と改善に努める。 ⑲	A		
厚	生徒の自己管理能力を養い、自律的な生徒の育成を目指す。	保健学習・指導を通して、健康管理の意識高揚を図る。 ⑦	B	B	カウンセラー主催の研修を行いたい。
		個別面談・カウンセリングをとおして自己を客観的に捉えさせ、その行動変容を促す。 ⑥⑦	B		
生	特別な支援を必要とする生徒への支援体制を整える。	フォローアップ委員会の効果的な活用と機能の充実を図り、年次・関係職員・保護者との連携を図りながら支援に努める。 ⑨	A	B	フォローアップ委員会が定期的に開催され情報の共有ができた。
		講演会や研修会を通して、特別支援教育の啓発や教育相談の利活用の促進に努める。 ⑲	B		
		グループエンカウンターを導入し、友だちづくりの支援を図る。 ⑦	B		
		学校医（精神科医）、スクールカウンセラー、その他外部諸機関との連携により、支援を必要とする生徒の早期発見と適切な対応に努める。 ⑨	B		
部	防火防災意識の向上	学校防災計画・学校緊急対応マニュアルを作成し、防火防災に対する意識向上を図るために防災訓練を実施する。 ⑨	B	B	来年度は地域と学校全体の訓練を実施したい。
		学校防災連絡会議を行い、地域と連携した避難訓練をとおして生徒と地域住民の実践的な態度を育成する。 ⑳	B		
		ストーブや灯油の安全な取扱を徹底させる。 ⑨	B		

別紙様式2 (高)

保健 厚生 部	環境美化意識の向上	日常的な声かけをとおして自発的な環境美化意識の向上を図る。 ⑦ B	B	清掃時間が授業終了後に変更したが、問題は起こらなかった。
		清掃用具の点検・整備を行い、校舎内外の整頓・美化に努める。 ⑦ B		
		カーテンのクリーニングとワックス塗布を実施する。 ⑦ A		
		清掃用具やモップ交換を自主的に実施できるよう、その方法改善に務める。 ⑦⑧ A		
		生徒が花壇への植栽活動を主体的に行うことができるよう支援を強めていく。 ⑦ B		
特 別 活 動 部	豊かな心を育成・推進する。	豊かな心推進委員会や年次との連携を図り、担任のLHR支援を行う。 ⑪ B	B	支援の具体的な方法を検討していく。
		教員研修会や道徳授業参観をとおして、道徳やLHRの支援を行う。 ⑪ C		
	生徒会活動を中心とした学校づくりを行う。	教員と生徒会役員・HR役員が連携し、学校行事やHR活動を計画的に進める。 ⑪⑬ A	B	スポーツフェスティバル、緑風祭等のさらなる充実のため、計画的な運営に努める。
		学校行事やHR活動をとおして生徒理解に努め、リーダーの育成を図る。 ⑫⑬ B		
	生徒と教員が協力し学校行事を成功させる。	充実した学校行事を実施するため、生徒と教員が内容や方法の改善に向けて創意・工夫を凝らし、その成功に努める。 ⑫⑬ A	A	今年度の反省点を踏まえて準備を進める。継続して新型コロナ対策を実施する。
		野球応援の伝統を守り、学校全体で積極的に取り組む。 ⑪⑬ A		
	部活動の活性化を推進する。	自主的・積極的に部活動に参加する態度を育てる。 ⑫ A	A	顧問間の活動の情報共有により施設の効率的な利用に努める。安全・安心な活動の場を確保する。栄養面、指導に関する講習等実施できるものを検討していく。
		各部活動の部長を通じて、主体的な部活動実施の指導を行う。 ⑫ B		
		指導内容に科学的な手法を取り入れ、競技力の向上につとめる。 ⑭ B		
		体験入部制を実施し部活動加入率の向上と退部生徒の減少を図り、活性化に取り組む。 ⑭ A		
	ボランティア活動を行う。	災害等で被害に遭われた方への支援を行う。 ⑳ C	B	八千代町の他、地域との積極的な交流に努める。生徒会役員以外にも積極的にボランティアに参加できる環境を整える。
		特別支援学校や地域で行われるボランティア活動に積極的に参加し、交流を深める。 ㉑ A		
生徒会とともにワクチン接種のためのキャップ集め運動等を積極的に行う。 ㉑ A				
広報活動を積極的に行う。	学校ホームページ内の各部活動の内容を定期的に更新するよう各部活動顧問に促す。 ⑲⑳ A	A	大会結果を集約し、漏れの無い実績更新に努める。	
図 書 部	図書館内の環境整備を行い、図書室利用を促進する。	書架の増設や配架位置を適切に行い、利用しやすい環境作りに取り組む。また、古い書籍・資料の除籍を進め、適切な環境の維持に努める。 ⑧ A	A	利用しやすい環境を整える。本年度、文学散歩が実施できたので、次年度も実施できるよう、綿密な計画をする。
		最新の書籍・資料を揃え、情報センターとしての機能を高める。 ⑧ A		
		教科と連携して書籍・資料を購入し、併せて授業利用に即した環境作りに努める。 ①⑧ B		
		図書館を利用する生徒のマナーアップに努め、校内読書感想文コンクール等の実施により、一層の有効利用を促す。 ⑦⑧⑨ B		
		委員会活動を活性化させて各種図書館行事を行い、Web ページ等をとおして情報発信に努める。 ⑧⑬⑱ B		
	図書館報「あすなる」や「八千代 INDEX」を発行し、図書紹介の企画を定期的に行うなど、生徒の読書への興味関心を喚起する。 ⑧⑳ A			
視聴覚機器・資料の有効活用と管理の徹底を図る。	教科学習や進路学習に関する最新の視聴覚資料を揃え、管理や貸出しを有効に行う。 ⑦⑯ A	A	施設設備を整える。	
	視聴覚室利用に関する職員研修を行い、有効利用を促す。 ⑤ B			
	視聴覚機器の準備・操作などを積極的に行い、視聴覚委員の活動を活性化させる。 ⑬ B			

別紙様式2 (高)

情報管理部	情報機器等の管理運営を行う。	現在そして今後の情報機器の適切な配置を考え、教育環境の充実を図る。 ①	A	A	セキュリティの重要性をもっと広める必要がある。	
		適切な教育情報ネットワークの管理を行う。 ①③	A			
		「茨城県立八千代高等学校情報セキュリティ実施手順を定める要項」等に沿って、適切に処理する。 ⑨⑩	B			
		緊急配信メールの管理等を行う。 ⑱	A			
情報スキルアップのための研修を企画する。	業務内容の改善および業務効率の向上を目的とした教職員研修を企画・実施する。 ①③	①③	A	A	機器等計画的に、購入配置をしていきたい。	
		校内サーバの管理・各種機器の貸し出しなどを行い、適切な利用を呼びかける。 ①③	A			
渉外	PTA 活動の充実を図る。	支部総会、PTA 総会の出席率を高め、充実を図る。 ⑱	B	B	コロナ感染症の対策を十分にしながら、PTA 活動を通常の状態に戻していく。	
		本校の実状に即した PTA・後援会会則の改正を行う。 ⑱	B			
		緑風祭への保護者の協力を促す。 ⑳	B			
		研修旅行の内容を検討するとともに、参加を促す。 ⑱	B			
		PTA 球技会の内容を検討するとともに、参加を促す。 ⑱㉑	C			
		広報誌の発行と内容の充実を図る。 ⑱	A			
		年次 PTA の充実を図る。 ⑱	C			
一年次	基礎学力の定着と早期の進路希望決定に向けての支援	自主的・積極的に授業に取り組む姿勢を育成する。 ①	A	A	基礎学力の定着には、年間を通じた継続的な指導が必要。「産社・総合委員会」を実施すべきである。	
		義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学び直し学習を行い、家庭学習の習慣化を図ることにより、基礎学力を含めた学力向上を目指す。 ②④	B			
		「産業社会と人間」の授業や科目・系列ガイダンスを通して、一人ひとりの適性や進路希望を生かす指導を図る。 ③⑪⑮⑰	A			
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成	服装頭髪指導等を通して適正な制服の着こなしや身だしなみについての徹底を図るとともに、欠席・遅刻・早退の増加の防止を図り、基本的な生活習慣の確立に努める。 ⑥⑧	B	A	服装や言葉遣い、規範意識等を確立させるためには、普段からの声かけが重要である。	
			年次集会時の講話等とおして、SNS や交通安全のマナー等、社会生活を送る上で必要な規範意識を育成するとともに、集団の中で自律的な行動がとれるよう働きかける ⑥⑧⑬			A
	人間尊重の精神に基づく人間関係の構築	ホームルームや学校行事を利用して、自他の尊重に基づくクラス経営に努める。 ⑧⑪⑫⑬	A	B	原爆体験の講演を通して命の大切さを学んだ。	
			道徳の授業を通して、豊かな人間性の育成を図る。 ⑦⑧⑪			B
			部活動への積極的参加を促し、継続する強い意志を育てる。 ⑭			B
	生徒理解及び家庭との連携	個別面談を実施し生徒理解を深め、家庭との連携を密にすることで、いじめや問題行動の早期発見・対応に努める。 ⑩⑫⑱	A	A	保護者との連絡を密にし、家庭との連携をとることができた。	
			生徒や家庭の状況に配慮しながら、教員間で情報を共有し、共通理解を図る。 ⑩⑳			A
二年次	希望に即した進路実現のための支援	休業前に主要教科の課題を出すなど、家庭学習を習慣化させるための機会を計画的に設け、基礎学力を定着・向上させるよう努める。 ①④	B	A	個人が所有しているタブレットの使用頻度を増やす。	
		授業や学級活動において、自分の意見をまとめ、発表するなどの言語活動の機会を増やし、自己表現能力を育成する。 ②	A			
		進学課外への参加を促すとともに、各種検定合格や資格取得に向けて積極的に取り組むよう働きかけ、目的意識を持って学ぶ姿勢を育てる。 ③④	A			
		個別面談や進路ガイダンスを通じて生徒理解を深め、自己の適性や能力を自覚させるとともに、希望進路の実現に向けて何をすべきかをしっかりと認識させる。 ⑮⑰	A			
	健全な心身の育成	挨拶の励行や礼儀作法の指導とおして、好ましい人間関係を築く。 ⑥	A			B
年次間の情報共有・連携を密にし、いじめや交通事故・問題行動等の未然防止、早期発見・対応に努める。 ⑩			B			

別紙様式2 (高)

二 年 次	基本的な生活習慣と規範意識の確立	生徒会・部活動・ボランティア活動等への積極的参加を促す。⑩⑬⑲	B	B	遅刻・欠席が増えた。次年度の進路実現のためにも、継続的に指導していく。
		時間を守ることを徹底し、欠席・遅刻・早退の増加の防止を図る。⑥⑧	B		
		適正な制服の着こなしや身だしなみの徹底を図るために、継続的な指導を行う。⑥⑧	B		
	道徳教育や修学旅行等の行事をとおして、規律正しい集団行動ができるようにする。⑥⑧⑬	A			
	地域・家庭との連携	保護者との連絡を密にし、家庭と連携して生徒の指導にあたる。⑩⑱	A		
保護者や地域・社会との連携	小さなサインや変化を見逃さず、家庭との連絡を密にとり、連携して適切に生徒の指導にあたる。⑱	A	A		
	生徒や家庭の状況に配慮して教員間で情報を共有しながら支援に努めるとともに、各校務分掌・外部機関との情報連携の推進と行動連携の強化を図る。⑩⑱⑳	A			
三 年 次	生徒一人ひとりのニーズに合った指導による進路実現	進路別ガイダンス等の進路行事や個別面談等を充実させることにより、進路や資格取得等に対する意識を向上させ、各自の進路実現を図る。⑮⑯	A	A	進路決定後の学力を維持するための方策が必要。課外や模擬試験に対する意識付けをしっかりと行う。
		基礎学力定着のため、授業や定期考査に臨む意欲の向上と自ら学ぶ態度の育成を図る。④	A		
		進学課外・進学模擬試験・公務員講座等への積極的な参加を促す。③④⑮⑯	B		
		進路実現を見据え、各種検定・資格の取得を励行する。③	A		
		進路指導部との情報交換を密に行い、生徒の進路決定に向けた環境整備に努める。⑩⑮⑯	A		
	自主性・社会性の育成と望ましい勤労観・職業観の醸成	社会人として必要な身だしなみ、礼儀作法やマナー、報告・連絡・相談の徹底をめざし、きめ細やかに継続的に指導をするとともに、自発的に行動する力を育成する。⑥⑦⑧⑱	B	B	授業以外の場でも、全職員で服装指導を行う。 社会人として必要な礼儀やマナー、周囲への気配りについて、日頃から指導する。
		最高年次として、生徒会活動・部活動・学校行事・周辺地域でのボランティア活動等の中心となって活動できるよう、積極的な参加を促す。⑪⑫⑬⑭⑲	A	B	
		「総合的な探究の時間」においては、進路ガイダンス等を通して、望ましい勤労観・職業観の育成を図り、社会人として活躍するための素養を身につける。⑨⑰	B		
	保護者や地域・社会との連携	家庭との連絡を密にとり、生徒の小さなサインや変化を見逃さないよう努めるとともに、各校務分掌・外部機関等と連携して適切に生徒の指導や支援にあたる。⑩⑱⑳	B	B	生徒の観察と教員間の情報共有を積極的に行い、問題行動の未然防止に努める。
	国 語 科	基礎学力の定着	基礎学力の定着を図るため、漢字や語句に関する小テストを定期的実施する。④	A	A
年度末に校内漢字コンクールを実施し、漢字学習に対する意識を高め、資格取得へとつなげる。③④			A		
外部団体への作品応募をとおして、文章を書く機会を多く設定し、「書く能力」の向上に努める。②③			B		
授業内容の工夫		指導内容を十分に検討し、ICTを活用し、プレゼンテーション能力の向上を目指すなど、進路希望に対応した授業を展開する。①②⑤⑮	B	B	多様な進路に対応できるよう、主体的学びの育成に向けた学習活動を展開する。
		主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業内容を研究し、読解力・表現力の育成を目指す。①②	B		
人間性を育む授業展開		読解や要約の学習を通して、他者の心情が的確に理解できるようにする。②	A	A	個性の伸長と生きる力の育成を踏まえ、進路実現につながる表現指導を組織的に展開する。
	自分の考えを論理的に表現する力を育成するため、3年間を見通した作文・小論文指導を計画し、進路達成率100%を目指す。②⑯	B			

別紙様式2 (高)

地	基礎学力と学習意欲の向上	主体的・対話的で深い学びを実現できる授業内容を研究し、わかる授業の実現と生徒の関心・意欲・態度の向上に努める。 ①	A	B	ICTを活用した、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を目指した学習活動を展開する。
		授業や考査で論述問題を設定し、生徒の思考力・判断力・表現力の向上に努める。 ①②	B		
		適正な評価基準の設定をとおして、観点別学習評価のさらなる充実を図る。 ①	B		
歴	授業内容の工夫・改善	新聞や視聴覚教材等を積極的に活用し、時事問題を含めた発展的な学習への関心・意欲を高める。また、家庭学習に向かう姿勢を育成するため、定期的な課題やレポートにより、文章表現力の向上に努める。 ④	A	A	教科間の相互授業参観を実施し、校内研修の充実を努める。
		他教科を含めた相互授業参観等を利用し、校内研修を充実させる。 ①②	B		
公	進路実現に向けた知識の構築	ICTを活用することで、主体的に必要な情報を手に入れる力を養うとともに、それらの情報をもとに対話的で深い学びを実現できるように努める。 ⑤	A	A	個々の進路希望に対応した授業展開の工夫と個別指導の充実により、生徒の進路実現を図る。
		個々の進路希望に即した授業を行い、個別指導の充実を図る。 ⑮⑯	B		
		進学・就職を意識した授業内容の精選に努める。 ⑯	A		
民	社会性を育む授業展開	挨拶・身だしなみを整える等の授業規律確保のための指導を徹底する。 ⑥	A	B	シチズンシップ教育の充実を通して、生徒の社会性を育む。
		グループ学習やディスカッション等の活動を通して、コミュニケーション力の向上に努める。 ②	B		
		各年次段階に応じた主権者教育を行い、有権者として求められる政治的教養を育む。 ①②	A		
		T・T授業や少人数授業の特性を生かし、個に応じた適切な指導を行う。 ②	B		
		小テストの結果を用いて形成的評価を行い、その評価をフィードバックすることにより適切な学習指導を行う。 ①④	B		
数	基礎学力の定着を図る。	基礎的な副教材や参考書を活用して基礎学力の定着に努め、比・割合等、基本的な計算ができるように指導する。 ①②	B	B	家庭学習習慣の定着が課題。生徒の年度の状況を客観的に分析し、柔軟に対処していく。数検受験者の増加。
		定期的に小テストや課題を実施し、基本的な問題を解けるようにするとともに家庭学習習慣の定着を図る。 ①④	B		
		検定試験の積極的な受検を促し、数学検定準2級合格者をだす。 ③	A		
学	数学的活動をとおして、数学ができたという実感がもてる授業を展開する。	相互授業参観を活用し、授業の改善点を見つける。また、他教科の参考になる部分を積極的に取り入れ指導力向上に努める。 ①	B	B	今年度まで研究・実践した結果を通し、次年度も継続して取り組む。引き続きICTの活用を進める。
		主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、グループ学習や発表等を取り入れた授業作りを行う。 ①②	B		
		ICT機材を活用することにより、生徒の興味・関心を高める。また、グラフ等を具体的に想像できるよう援助する。 ①②⑤	B		
科	進路実現に向けた学力の養成を図る。	進学・就職対応の課外授業及びその他検定取得のための課外授業を積極的に実施する。 ③	A	A	さらに充実させる。
		個々人の進路希望に応じた個別指導を充実させる。 ③⑯	B		
理	基礎学力の定着を図る。	ワークブックやプリントを積極的に活用し、生徒の基礎学力の定着を図る。 ②	A	A	さらなる学力定着に向けての活用法を工夫する
		授業の単元ごとに小テストや確認テストを実施する。 ①	A		
	身の回りの事物・現象を自然科学的に考察し探求する力を育成することを目指す。	生徒がより身の回りの事物や自然現象に興味・関心を持てるよう、ICT機材を工夫して活用する。 ①②⑤	B	A	興味関心をもった自然現象について、生徒自身による実験や観察の計画立案ができるよう援助していく
		生徒が主体的・対話的に実験・観察を行うことができるよう、各単元の目標に則した探究的な実験・観察を計画、実施する。また生徒の実態に応じた探究活動重視のワークシートを作成する。 ①③	A		
		器具や薬品の取り扱いをきちんと指導し、安全な探究活動を実施できるよう配慮する。 ③	A		

別紙様式2 (高)

	生徒の「わかる」を引き出すため教員の指導力向上に努める。	相互授業参観を通して授業の改善点を見出し、個々の指導力の向上に努める。 ①	B	B	教科内・教科間相互授業参観を今年度以上の回数実施し、指導力の向上を図る	
		T・T 授業や少人数授業の特性を生かし、個に応じた適切な指導を行う。 ②	A			
		小テストの結果を用いて形成的評価を行い、その評価をフィードバックすることにより適切な学習指導を行う。 ①④	B			
保	基礎体力の向上を図る。	授業時の運動量を確保する。 ①	A	A	運動量確保のための展開の工夫や、体操や補強運動に授業ごとに変化を加え、運動への興味関心を高めていく。	
		体力を高めるための体操や補強運動を実施する。 ①②	A			
		持久走大会を実施し、全身持久力の向上に努める。 ⑬	A			
健	運動中の事故防止に努める。	体育施設・用具の安全管理を徹底し、運動中の事故を未然に防ぐ。 ⑦	B	A	補修が必要な施設等の修繕依頼や、用具の更新を引き続き進めていく。	
		体育館・グラウンドの危険箇所を把握し、改善する。 ⑨	A			
		運動中の事故を防ぐため、健康観察を徹底し、事故の未然防止に努める。 ⑨	A			
体	教科内での研修を充実させる。	定期的に教科会を開き、積極的に情報を交換し、共通理解のもとに授業を展開する。 ①②	A	A	日々変化していく情報を共有し、充実した指導につなげる。評価についても基準を明確にし、適正評価に努める。	
		実技指導者講習会等で得た知識や情報を教科内で共有する ①	B			
		観点別学習状況評価による評価基準を確立し、それに基づいた評価を行うことで、講座間の評価格差を未然に防止し、評価の適正化に努める。 ①	A			
育	個の能力に応じた指導を行う。	体力テストの結果を用い、個人の能力に応じた指導を行う。 ②	B	B	より個人に合わせた指導や、自ら課題を発見していける授業展開を目指し工夫する。	
		ICT を活用し生徒一人ひとりの運動能力に応じた課題を発見させ、その克服に努めさせる。 ②⑤	B			
科	集団行動の技能を身につけさせる。	集合・整列・挨拶等、集団行動の指導を継続的に行う。 ⑥	A	A	授業開始時、終了時の集団行動を継続していく。	
		体育的行事のさらなる充実に努める	校内順位発表等により、体力テストや持久走大会等の行事に取り組む意識の高揚を図る。 ⑦	A	A	スポーツフェスティバルや年次レクリエーション等とも連携・協力していきたい。
	健康な生活を実践するための知識を身につけさせる。	たばこやアルコール・薬物が人体に及ぼす影響について正しい知識を身に付けさせる。 ⑧⑨	A	A	ICT 機器の活用により、がんや精神疾患等の正しい知識や行動選択できる能力を高めていきたい。救急救命等の実践により、安全に関する意識をさらに高めていきたい。	
		性教育に重点的に取り組み、正しい行動選択ができる能力を養う。 ⑨	A			
		健康と運動の関係を理解させることにより、生涯スポーツにつなげる。 ①⑪	A			
		救命救急講習を通して、救急時の対応・処置の仕方を学び、身に付けさせる。 ①⑦⑨	B			
		がん教育を行い、規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ⑩	B			
芸	感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	生徒一人ひとりに合わせた個別指導を行い、作品制作やその発表を通して、個々に応じた創造性の育成、芸術的な表現力の向上を目指す。 ①②	B	B	個別指導を通し制作への意欲を引き出し表現力の向上を目指す。	
		自ら表現する喜びを実感する授業への改善に努める。	各分野の基礎的な指導を通して芸術性を把握させ、授業の中での演奏・合唱・作品制作など、積極的に取り入れる。個々の実践と実習することで、表現する楽しさを実感させる。発表力の育成と生徒間の鑑賞力の育成を目指す。 ①	A	A	実践・実習を通して、各分野の芸術性を理解させ、技術の向上と表現する楽しさを実感させたい。
			作品鑑賞を通して、芸術性の発見につなげ、個々の感性の育成を目指す。 ①	B		
英	基礎学力の向上を図る。コミュニケーション能力の育成を図る。	基礎的・基本的な単語・文法を中心とした学習内容について学び直しトレーニング教材を活用し、不十分なところを補うとともに学習内容の確実な定着を図る。 ②④	B	A	1年次の早い段階で、中学既習内容の確認を行う。	
		ノートや配布プリントを定期的に点検し、定期考査及び家庭学習に効果的に用いることができるように指導する。 ②④	A			
		個別指導を柔軟かつ適正に行い、多様な生徒の学力の向上を図る。 ②	A			

別紙様式2 (高)

英 語 科		ALT とのチーム・ティーチングをとおして、外国人とのコミュニケーション能力の育成を図る。 ②	B	B	ALT との打ち合わせの時間をもっと確保したい。
	積極的に学習に取り組む姿勢を養う。	授業において教員は極力英語を使用し、生徒にもできるだけ英語で発話させるなど、積極的に英語でコミュニケーションを図る態度を養う。 ①②	B	B	電子黒板等の利用を積極的に行っている。今後は教員間での工夫内容の共有を行いたい。
		ICT 機器や DVD 等の視聴覚教材を用いた授業により、生徒の興味・関心を喚起するよう努める。 ①⑤	A		
	教員研修の充実を図る。	進学課外や英検対策課外を行い、多様な進路志望に応じた指導に努める。 ③	A	A	年次を超えた英検対策課外等も考慮に入れ、課外の在り方を考えていきたい。
		グループワークやペアワークを活用し、アクティブラーニングに積極的に取り組む。 ①	A		
		チャイム始業や挨拶・服装指導により授業規律を確保する。 ⑥	A		
		相互授業参観や公開授業を実施し、教員間の情報交換や改善点発見の機会を設ける。 ①②	B		
	基礎学力の向上を図る。	各種研修会に積極的に参加するように努め、その内容を教科内で共有する。 ①②	C	B	科会において、各種研修会に参加した教員より伝達する時間を設けるなどの工夫が必要である。
		基礎的・基本的な単語・文法を中心とした学習内容について学び直しトレーニング教材を活用し、不十分なところを補うとともに学習内容の確実な定着を図る。 ②④	B		
		わかりやすい授業の展開を心がけ、考える力、表現方法を身に付ける。 ①	B		
教科書・プリント等を利用して理論の学習をすると共に、実技を身に付ける訓練を繰り返す。 ②		B			
各種資格取得のための効果的な学習方法を身に付ける。 ②③		B			
家 庭 科	基礎学力の定着と学習意欲の向上	目標や授業計画・評価基準を明確にし、わかりやすい授業を展開する。 ①②	A	A	検定試験における、適切な筆記・実技の指導方法を行う。
		教科内で指導方法を共有し、授業展開についての工夫・改善を行う。 ①	A		
		ICT を活用し個に応じた柔軟かつ多様な指導を行い、家庭学習のふりかえりをとおし、学力・技術の向上を図る。 ②③⑤	A		
		検定試験を積極的に活用し、学習意欲の向上を図るとともに、実習の事前・事後指導、課外等を行い、進路実現に向け指導を充実させる。 ③④⑯	A		
		「主体的・対話的で深い学び」を意識し、系列・科目選択や進路実現に向け、各年次との連携を図り、個々の生徒の希望や適性に合った選択ができるよう努める。 ⑯⑰⑱	B		
	基本的生活習慣の確立と規範意識や豊かな心の育成	日々の授業や実習をとおして、自立の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成を図る。 ⑧⑱	B	B	安全に実習ができる環境を整える。
		毎授業開始時に服装頭髪指導、生活指導、礼法指導を行い、正しい言葉使い等、規範意識の高揚を図る。 ⑦⑨⑱	B		
		施設・設備・用具を整え、利用マナーの向上を図る。 ⑧⑪	B		
	健全な心身の育成	各科目の実習をとおして、強い精神力や協調性、自主・自立の精神を育み、健全な心身の育成を図る。 ⑦⑨	B	A	地域への関心を持たせる工夫をする。
		地域への関心を深め、郷土に対する愛情を育む。 ②	A		
校外実習等の充実	校外実習施設や関連機関での体験・実習等様々な経験をとおして、望ましい職業観の育成を図る。 ⑰	A	A	校外実習施設との連絡をまめにする。	
情報科	情報に関する知識と技術を習得させる。	情報に関する基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせる。 ①	B	B	Classroom での課題配布や連絡等を頻繁に行い、個々のタブレット端末の利用をスムーズに取り入れていく。
		教科書の内容や身近な例をとおして、ICT 等での情報の検索方法や扱い方について十分な指導を行う。 ①⑤	A		

別紙様式2 (高)

情報科	基礎的・基本的学力の向上	授業の中で、知識と技術（情報リテラシー）の重要性・必要性を理解させる。	①	A	B	情報モラルや SNS の利用等については継続的・段階的な知識を深めていく
		情報機器の正しい使用方法を理解させ、情報モラルを身に付けさせる。	①	B		
		プレゼンテーションをおこなうことによって、自己表現能力を伸ばす。	②	B		
	教員の資質の向上	わかりやすい授業の展開を心がけ、常に教材研究に努める。	②	A	A	情報の在り方を考え、担当者がスキルアップできるように努める。
		教科書・問題集・補助プリントを利用して反復練習指導を行う。	①	A		
		学習指導における問題提起を行い、研究協議を十分に行う。	③	A		
教科会をとおし、指導や観点別評価の在り方等について話し合い、共通理解に努める。		①	A			
		相互授業見学等を行い、指導力の向上を図る。	①	B		
工業科	自動車整備及び機械・電気・電子・情報技術の分野に関する知識と技術を身に付けさせる。	基本的な生活習慣や、安全に作業する態度を身に付けさせる。	①⑥⑩	B	A	引き続き、社会で活用できる知識を身につけさせたい。
		わかりやすい授業の展開を心がけ、考える力、表現方法を身に付ける。	①	A		
		教科書・プリント等を利用して理論の学習をすると共に、実技を身に付ける訓練を繰り返す。	②	A		
		各種免許取得のための効果的な学習方法を身に付ける。	②③	A		
ICT などを利用する現代の指導方法の進歩に合わせた指導や従来の工業技術として培われて継続されている技術の指導を複合させながら、教員の指導力及び資質の向上を目指す。	最先端施設の見学及び様々な研修・実習を行い、実社会の技術進歩を取り込むことで、指導力の向上を目指す。	⑰	A	A	実習室等でネットワークが使用できるよう、設備の充実を図りたい。	
	ネットワークを利用した教育の充実、平等公平で意欲が向上するような教育の確立に取り組む。	④⑮⑯⑱	A			
	教科会を通して、指導や評価のあり方などについて検討し、共通理解を図る。	②③				
商業科	商業に関する知識と技術を習得させる。	チャイム to チャイムの授業を心がけ、毎授業時間の初めに身だしなみチェックを行い、職業人としての規範意識を身に付けさせる。	①	B	A	授業等で身につけた知識を実践するような機会(校外学習等)を設け、勤労観・職業観の育成を図りたい。
		大学見学及び模擬授業を実施し、商業に関する知識を深めさせ、勤労観・職業観の育成を図る。	⑰	A		
		夏季休業や冬季休業に検定対策の課題を課し、家庭学習の充実を図る。	④	A		
基礎的・基本的学力の向上	わかりやすい授業を心掛け、個に応じた指導を展開する。	②	A	A	新課程に伴い、検定試験の内容も大幅に変更しているため、情報を整理して効果的な指導を展開する。	
	教科書・問題集・補助プリントを利用して反復指導を行い、検定試験に対応した指導を展開する。	①	A			
検定への取組	授業の中で生徒に資格取得の必要性・重要性を説明し理解させる。	③	A	A	新検定への移行期であるため、今まで以上に生徒に有益な情報を整理し、多くの資格取得に結び付けられるように授業・課外等での指導にあたる。	
	全員受験・全員合格を目指し、授業・課外等で指導を行う。	①	A			
	検定に関わる授業の担当者同士で共通理解を図りながら指導にあたる。	③	A			
	新しい検定基準に対応するための指導方法を検討する。	③	B			

別紙様式2 (高)

商業科	教員の資質向上	通常の授業時間における学習指導や、検定合格に向けた取組を通して見いだされた課題や問題点について、その克服のための研究協議を十分に行う。①	B	B	次年度に限り、3年次生は旧課程で2年次生が新課程となる。学習評価をはじめ多くの事務処理が繁雑になることが予想されるため、教員同士の連携を密に取りながら進めていく必要がある。
		相互授業見学等を行い、指導力の向上を図る。①	B		
		教科会を通して、指導や観点別評価の在り方について話し合い、共通理解を図る。①	B		
福祉科	基礎学力の向上と福祉に関する専門知識・技術の定着	個に応じたわかりやすい授業を展開するために、單元ごとの小テストや実技テストなどを行い、定期的に個々の学習定着度の把握に努める。①②	A	B	相互の授業参観等は次年度以降増やしていきたい。次年度は、今年度以上に自己表現能力を向上させるよう努めていきたい。
		教科内での連携や生徒の情報交換を密にするとともに、相互授業参観を積極的に行う。①⑩	B		
		自分の考えを文章にまとめたり発表したりする機会を授業で必ず設けるほか、ICTを活用して施設実習後に体験発表会を行うなどし、自己表現能力を向上させるよう努める。②⑤	B		
	介護職を目指す者としての意識の向上	毎授業開始時に服装や礼法の指導を行い、基本的な生活習慣やマナーを定着させる。⑥	A	A	基本的な生活習慣やマナーの定着を今年度以上に徹底していきたい。ICTについても今年度以上に活用していく。
		自ら考えて行動する姿勢や奉仕の精神を育てるような働きかけを積極的に行い、介護職を目指すうえで必要な素養を高める。⑦⑱	B		
		介護福祉士国家試験の過去問題やICT等を活用し、福祉専門職についての理解を深め、卒業後もさらなるステップアップができるような取組を積極的に行う。③⑤⑱	A		
校外実習等の充実	実習施設との打ち合わせを十分に行うとともに、目的意識と責任感をもって実習に臨めるように事前指導を充実させる。⑦⑱⑲⑳	A	B	在宅福祉や障害者の施設への実習も次年度からは再開していきたい。	
	在宅福祉・障害者福祉に関する施設の見学・体験実習を取り入れ、幅広く福祉を学ぶ機会を提供する。⑦⑱	B			
産業社会と人間	自己を理解する。	授業の中で自分自身を見つめ、自身の持つ可能性を追求する。②	A	A	授業の精選が重要である。
	望ましい勤労観・職業観を育成する。	外部講師の講演を聴くことにより、将来の方向性について考えるとともに、高校生としての在り方・生き方を意識させる。③	A	A	様々な講習会や講演会を通じて、講師の方々のお話を聞くことで、自己の在り方・生き方を育成することはできた。
		進路ガイダンスを通して、自分の将来について見つめ直す。③	A		
		社会における自己の在り方・生き方について考え、寛容性、協調性など社会人に必要な力を養う。⑩	B		
	自己実現のための進路選択をする。	適性検査の結果を踏まえ、自分の適性を客観的に理解させるとともに、様々な仕事や学問の分野についても理解させる。④	A	B	系列選択や科目選択をすることで、進路について真剣に考えることができた。
ライフプランの作成により、各自の進路目標に沿った科目選択が出来るよう支援する。また発表をとおして、将来の進路について真剣に考えさせる。①②		B			
一年次総合的な探究の時間(道徳含む)	個性の伸長に努め、価値ある人生を追求する。	基本的な生活習慣を確立し、心身の調和のとれた生活を身に付けさせる。⑥⑫	A	A	基本的な生活習慣は普段の指導が重要である。
		人生の理想を求め、希望と勇気を持って積極的に生き抜く強い意志を養わせる。⑦⑬	B		
	他の人々の立場を尊重し、感謝と思いやりの心を育てる。	礼儀の意義を理解させ、TPOに応じた適切な言動をとれるようにする。⑥⑧	A	B	人間関係構築のために相手の立場の尊重が必要である。
		他の人々の立場を尊重し、感謝と思いやりの心を持てるようにする。また、真の友情を育み、信頼し合い、励まし合う心を育てる。⑦⑩	B		
	生命の尊さを理解し、かけがえない自他の命を尊重する。	自然を愛護し、美しいものに感動できる豊かな心を育てる。⑦	B	A	来年度も継続して指導が必要である。
		いのちの大切さを自覚させ、希望を持ってよりよく生きていこうとする意欲を育てる。⑦⑩	A		

別紙様式2 (高)

一 年 次 総 合 的 探 究 の 時 間	社会の一員として自覚と責任を持ち、周囲の人々に尊敬と感謝の念を深め、信頼関係及び良い校風を築く。	集団の意義について理解を深めさせ、自己の役割と責任を考えさせる。 ⑬⑭	A	A	18歳成人であることを鑑みると今後も継続して指導していく。
		学校生活における規則の意義を理解させ、社会の秩序と規則の順守意識を高めさせる。 ⑧	A		
		正義を重んじ、差別や偏見のない社会を目指す。 ⑦⑧	A		
		家族の大切さを理解させ、家族の一員としての自覚と責任を持たせる。 ⑦	A		
		学校に関わる人々が、互いに信頼関係を持ち、尊敬と感謝の念を深める態度を育てる。⑦⑫	B		
二 年 次 総 合 的 な 探 究 の 時 間	自己の在り方生き方について考察し、進路実現のための学習に意欲的に取り組む。	進路ガイダンスや職場見学会や進路学習をとおして、自己の進路についての意識づけを図るとともに、進路実現に向けての見通しをしっかりと立てられるよう支援する。 ⑮⑰	A	B	進路を選択するうえで、その方向性を示してやることでより自主的に取り組めるよう支援していく。
		外部模試・小論文講座等を活用し、自分の能力を客観的に見つけ、自己の適性を確認する。 ③	A		
	自ら学び自ら考え、主体的な判断、行動ができる能力や資質を養う。	学校行事や修学旅行の事前学習等をとおして、コミュニケーション能力を高めるとともに、自ら考え、適切な判断・行動をとり、主体的に問題解決する能力や資質を養う。 ②⑥	A	A	
		文化祭・修学旅行等の学校行事をとおして、自らの役割を自覚して積極的に行動する力を養うとともに、他と協調して行動する姿勢を育てる。 ⑦⑫⑬	A	B	校外の方々との関わりを持つことで、コミュニケーション能力を身に着ける。
	社会の中での自分の存在を認識し、より良い社会人となるための意識を養う。	社会人講師による講演会や職場見学などをとおして、望ましい勤労観・職業観を育てるとともに、社会人として必要な資質を理解させる。 ⑧⑰	B		
		三 年 次 総 合 的 な 探 究 の 時 間	自己の可能性の発見や自己実現に向けての考えを深めさせるとともに、進路実現に必要なスキルを高める。	一般常識対策 (SPI 対策)・作文練習・面接練習等を行い、進路実現に必要な力を育てる。また、求人票の内容や奨学金等について正しく理解させ、適切な進路選択に必要な情報を収集する力を身に付けさせる。 ④⑯⑱	A
外部進路業者と連携して進路別学習を行い、より具体的・積極的に進路活動に取り組ませる。また、情報機器を使用した面接指導等を行い、いかなる状況下においても対応出来る人材育成を行う。 ③⑤	B				
社会人として必要な知識を身に付けさせ、自己の在り方・生き方について考えさせる。	主権者教育や租税教室、外部講師による講演会等の機会を設けることにより、社会人として必要な基礎知識を学び、生活を自律的に管理し、地域や社会に資することができる意識・態度の醸成を図る。 ⑦⑧⑨⑱		B	B	講演会等のふり返りの時間が確保し、知識の定着をはかるような指導を行う。

※評価基準： A：達成できている B：概ね達成できている C：あまり達成できていない D：不十分である